



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ
2020～2021 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「集う」



◆会長 村瀬 祐治 ◆幹事 岡崎 壮男 ◆会報委員長 岩本 正樹 ◆会報担当 岩本 正樹

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1266 回	57 名	56 名	45 名	—	80.36%
前々回 1264 回	57 名	57 名	44 名	2 名	83.93%

●点 鐘

- ロータリーソング 奉仕の理想
- 高山中央ロータリークラブ職業倫理基準
- 本日のゲスト

国際ロータリー第 2630 地区ガバナー
劔田 廣喜 様

●会長の時間 会長 村瀬 祐治



本日、高山中央ロータリークラブ創立 30 周年例会に来賓として国際ロータリー第 2630 地区劔田廣喜ガバナーをお迎えしました。ご多用の中ありがとうございます。

◎創立記念日についてお話いたします。ロータリーはアメリカが発祥の地です。クラブ創立記念日開催はクォーターすなわち 25 年 50 年 75 年に大々的に式典を行うようになっております。高山中央ロータリークラブは、2015 年 11 月創立 25 周年記念式典・祝賀会を盛大に開催いたしました。市長・教育長・商工会議所会頭・地区ガバナー・各クラブの皆さんを来賓としてお招きしました。また、市内小学 5 年から中学 3 年生 47 名を対象としてカトリック場を開催しました。当時の会長は大保木正博さん、幹事坂之上健一さん、実行委員長は橋本修さんでした。

●幹事報告 副幹事 下田 徳彦

◎国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より

・国際大会オンライン登録のご案内



<http://convention.rotary.org/ja>

・インターアクト教師部会中止のお知らせ

◎国際 RC 第 2630 地区ガバナー事務所より

・「地区研修・協議会」ご出席の御礼

○高山西ロータリークラブより

・例会変更のお知らせ

4 月 30 日(金)定款により休会

5 月 7 日(金)定款により休会

5 月 29 日(金)→30 日(土)地区大会

●創立 30 周年記念例会 司会 清水 幸平



創立 30 周年実行委員長挨拶 中田 専太郎



十年一昔と言いますが、逆に言えば、歴史を語るのには最低 10 年は必要、と考えられなくもありません。その意味でも 30 年というのは、すでにその 3 倍もの歴史を語れるとも言えそうです。

実際、チャーターメンバーの方々などは、入会の時に生まれたお子さんがはや 30 歳になられますので、そのことから 30 年の歴史の長さを実感出来るのではないのでしょうか。

この、我々ひとりひとりが築き上げた、記念すべき 30 年を大いに祝いたいところではございますし、一献傾けたいところでもございますが、残念ながら、コロナの渦中でもございますので、本例会において、粛々と 30 周年を祝いたしたいと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

尚、友好クラブであります平塚湘南 RC も 5 月 7 日に 30 周年が行われますが、やはりコロナの影響で、

当初の計画とは少し違った形になるそうです。

30 周年の記念事業としましては、すでにご承知のように、村瀬会長が中心になられて、地区補助金を活用した事業が実施されました。具体的には、適応指導教室「であい塾」に対して、Ipad を 10 台寄贈させていただきました。児童生徒にとってこのタブレットが効果的なものになることを期待しております。

本日は 30 周年を起点として、これまでの歩みを伊藤さんに、これからの歩みを高橋さんにそれぞれ熱く語っていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願い致します。最後になりますが、今や完全に皆様のビジネスパートナーの地位を築いておりますスマートフォン、そのパワーアップを図る意味合いで、すでにご覧になっている方もいらっしゃるかもしれませんが、お手元に 30 周年の記念品を配布させていただきます。コロナ禍では言いにくいことではありますが、どうか皆様これをバックに忍ばせながら、それぞれの場で、更なるご活躍を祈念させていただきます

会長の挨拶

村瀬 祐治

高山中央ロータリークラブ創立 30 周年式典例会を開催いたします。クラブ創立は 1991 年故中川和行くパストガバナー・故劔田豊市当別代表、故溝際一男設立準備委員長 各位の献身的なご指導とお力添えにより、高山西ロータリークラブをスポンサークラブとして高山ロータリークラブ・下呂ロータリークラブをコ・スポンサークラブとして創立され同年 5 月 20 日に我が国 1960 番目のロータリークラブとして認証されました。設立にあたり多くの皆様より賜りましたご尽力に改めて感謝申し上げます。

創立 30 周年記念事業について年計画として、

- ① ミャンマーのタニベ村に小学校校舎増設。
- ② 高山市教育委員会「であい塾」へ通信機器付タブレットを 11 台寄附。を掲げました。

①に関しては、合意が得られず断念いたしました。②に関しては、毎年不登校の児童生徒が増加しています。学校へ通学できない不登校の児童生徒に義務教育の学習の保障をするためにタブレットによる学習で基礎学を学ぶ機会を作り、将来へ進む道を広げていく事業として必要であると考え高山市教育委員会「であい塾」へ通信機器付タブレットを 11 台寄付しました。

ガバナー祝辞

劔田 廣喜 様



「30 周年これまでの歩み」 伊藤 正隆



高山中央 RC は 1990 年に高山西 RC の 25 周年記念事業として高山西 RC をスポンサーに誕生しました。1989 年より西 RC の劔田豊氏特別代表（ガバナーより全権依頼）と準備委員長の溝際

一男さんらのお力で無事に 1991 年 3 月に仮クラブとして例会を開始し、6 月 6 日に RI 加盟認証がされました。10 月 13 日に高山短期大学をお借りして認証伝達式を盛大に開催できました。準備段階では 7 人のキーマンと高山西 RC の黒川さんにもご協力いただき、チャーターメンバーを決定させていただきました。最初は 50 人以上の名前が上がりましたが 41 人のチャーターメンバーでスタートを切り、初代会長に三輪義平さん、幹事に溝際清嗣さんということで始まりました。10 周年には私が実行委員長で会長が劔田さんでした。メンバーは 51 名と増えておりましたがチャーターメンバーは 24 名になっていました。現在は 55 名のメンバーのうちチャーターメンバーとして在籍しているのは 10 名になっています。30 年の間その時々で様々な事業をして現在に至っております。これからも 40 周年 50 周年と息長く続く事を願っています。

「これからの歩み」

高橋 厚生



今回、中田委員長より「これからの高山中央 RC について話してほしい」とご依頼を受けた時の率直な思いは「なぜ私が？」「何を話せば？」でした。私は 2013 年 7 月入会で、会員歴 8 年ほどで、今年 47 歳になります。メンバーを見る

と年下は二木君だけでしょうか。残念ながら、現在 30 代の会員がいないという状況です。RC のこれからの考えるとき、よく「若手の入会を」という言葉をお聞きします。なぜ若手の入会が少ないのか。そもそも RC における若手とは？

10 年近く昔の話になりますが、30 代の頃を思い起こして少し考えてみました。私が 30 代の頃は「高山 YEG」や各種業界の青年部に所属しておりました。現在でも人数確保のため、卒業が 50 歳の「青年部」なるものもあり、2 つばかり所属しております。当時の私の考え方としては、「あまり多くの会に参加しても活動できない。青年部は定年があるので、それから考えよう」だったと記憶しています。

ではなぜ、青年部活動と RC 活動の両立を避けたかったのか。一つは、先ほど話しました「あまり多く入会しても活動できない事」ですが、それに付随して二つ目は、「一般的な RC のイメージの問題」です。ロータリーの一般的なイメージを想像してください。

良い印象としては

- ・ 経営者層の集まり
- ・ 奉仕団体
- ・ 地域活動団体
- ・ 地域の未来をけん引する人の集まりなどでしょうか。

悪い印象としては

- ・ 金持ちの集まり（何してるかわからんが、集まっている。呑んでいる人々）
- ・ 我々には関係のない一部の人の集まりなどでしょうか。

私が入会する時に言われた言葉です。

良い印象としては、「RCにお誘いがあるなんてすごいね」悪い印象としては、「あまり遊びすぎないように」「やっと青年部が落ち着き始めたのにまた？」などでした。その中で最も印象に残っているのは「なんで入会しなくてはいけないの？」でした。この言葉の真意は、「RCが良い会」であることは肯定しつつも「なぜあなたが、その活動をするのか？」「誰かほかの方でも良いのでは？」という考えです。あまりロータリーに縁のない方々にとってのイメージは「良くも悪くも名誉団体」「自身の生活に影響はない、あるいは、影響してまでする活動ではない」という所でしょうか。

さて本題の「これからの歩み」に戻ります。これからの RC の歩みについて私が考えるところとして、

- ・ 会員の獲得(新入会の勧め、現会員の退会を防ぐ)
- ・ RC の活動必要性を会員自らが実感すること

「誰かがやってくれば」「我々の知らないところで誰かがやっている」という一般的なイメージに対抗し「誰かが」ではなく「私が」、「我々の知らないところで」ではなく「私が主軸に或いは関与して」に意識を変えることができるのではないのでしょうか。異論反論あるかとは存じますが、例えば「ポリオの撲滅運動」です。国際ロータリーとしての大きな、意味のある活動だと思います。100人に聞けば100人が「必要性のある活動」と答えると思います。しかし必要性を実感できる活動でしょうか。あまりに遠いところでの出来事に実感がわかないのではないのでしょうか。

これは、ロータリーが「国際」であるが故の弊害ではないかと思います。もちろん、方向を変えて見れば、国際的な感覚を、世界を身近に感じれる事としても捉えることができ、これは大きなメソッドかとも思います。

これからの RC は、国際的な活動を続けつつ、もっと身近で、目に見えて実感できる RC 活動から RC 活動の必要性を、まずは、会員が実感する、そして、地域に実感していただく事が大切なのではないのでしょうか。

次年度、私は青少年奉仕委員会担当理事を承りました。担当内容は、「出前講座」「インターアクト」

「米山記念奨学」関連です。これからの活動は、RC 活動の中でも特に対外的な活動であり、身近な活動です。これからの活動を通して「必要性を実感できる」活動となり、この活動を通して「誰かが」ではなく「私が」、「私の知らない所で」ではなく「私が関与して」と考える若者を増やし、その先に「RC のメンバーとして、実感できる活動をしたい！」と思ってもらえる様に頑張ります。

<ニコニコBOX>

本日はご来賓として国際ロータリー第 2630 地区 劔田ガバナーのご出席を頂いております。後ほどご祝辞の挨拶を頂きますのでよろしくお願い致します。

理事役員一同

創立 30 周年おめでとうございます。皆様、健康でがんばりましょう。

松之木 映一

創立 30 周年おめでとうございます。私は入会させて頂いて 27 年となりました。皆様には今まで本当にお世話になりました。

久々野 国良

妻の誕生日に花を頂きありがとうございました。お蔭様で今年も首の皮一枚つなごった状態で暮らしていけることと思います。

高原 清人

コロナウィルス感染防止強化のため、今回よりアクリル板を設置させて頂きました。皆様の安全のためにご理解とご協力をお願いします。

井ノ下 雄志

昨日、高山市小学校野球大会で西小学校が優勝。孫がキャッチャーとセカンドで二人出場し、ホームランを打って非常に楽しませてくれた一日でした。私に似なくてよかった！

足立 常孝

創立 30 周年おめでとうございます。大変申し訳ありません。中座します。

中田 学

先週から須田病院でも職員のワクチン接種が始まりました。一日 30~35 名実施していますが大きな副反応がないことに感謝して。本日 1 回目の接種を受けることにも感謝して。念のため早退します。

益田 大輔

